

いつの間にかふんわり包まれている。訳者の後書きでは「ウディ・アレンとタランティノーとボルヘスとロートレアモンを合わせたような」とあったが、それよりも映画には翻せないモノローグの重みが効いている。ほかに外国文学ではミハイル・ブルガーコフ『犬の心臓』の現代性に感嘆しつつ、ただ笑った。

竹内 洋

昨年読んだものうち以下の四点が特に印象に残った。

1 吉田徹『感情の政治学』講談社、二〇一四年

反日論や嫌韓論にみることでできるように、政治はイデオロギーの衝突というより感情の衝突となっている。熟慮による政治参加も、損得勘定による政治参加もおろそかにしてはいけないということに本書の主張の眼目がある。政治的なるものをもたらす「恐怖」という感情、よき政治を成り立たせる「信頼」という感情にわけいてある。一九七五年生まれの著者ならではの敏感な時代感覚による政治学のプロンティア開拓の書。

2 筒井清忠『二・二六事件と青年将校』吉川弘文館、二〇一四年

二・二六事件研究の第一人者による決定版。

の子供を預かることになった主人公の女性が、この男の子の成長とどのようにつきあうか。べたべたするだけではない。居心地が悪かったり、迷走したり、臭かったり、変な男が横から出てきたりと小池ワールドが展開し、何だか部屋の匂いまで嗅ぎきってしまったような濃厚な読後感を味わえる。

3 柴田元幸選・訳 きたむらさとし絵『アイスクリームの皇帝』河出書房新社、二〇一四年

ウォレス・ステイブンズの詩のタイトルを冠した本が日本でも出たかと思うと感慨深い。ステイブンズは二十世紀のアメリカ詩人の中でももっともおもしろい人の一人だが、難解というか、「よくわからないムニャムニャしたところこそが快感」という厄介な詩の書き手で、そのせいもあり日本での知名度は今一つ。でも、訳者はそこに果敢に挑戦、見事

青年将校における政治志向が「天皇型政治文化」のなかで「改造主義」と「天皇主義」という楕円の二つの中心をもっていたことを剔抉する。目のうつぼりがとれる。巻末の既存の研究書レビューは辛口だが、それだけに教えられることが多い。

3 佐藤卓己『物語 岩波書店百年史2——「教育」の時代』岩波書店、二〇一三年

岩波文化に対して人々が抱いている多くのイメージを資料をもとに覆している。さらに忌憚なく岩波の社史の間違ひも指摘している。丹念な資料収集（「遠心力」と「斬新な解釈（「求心力）」という二物をそなえた著者一流の才覚が通念砕きの速射砲となり、まことに巻を措くあたわずとなる。版元の岩波書店の懐の深さに敬意を表したい。

4 長崎励朗『「つながり」の戦後文化誌——労音、そして宝塚、万博』河出書房新社、二〇一三年

労音の中でも最大の団体だった大阪労音の盛衰を資料やインタビューにもとづいて克明に再現しているが、「キツチユの教養」という分析視点の案出が斬新かつ独創的。戦後の大衆教養主義の盛衰史としても読むことができる。活躍が期待される新人論者の誕生を喜ぶたい。

阿部公彦

(英文学)

1 赤川学『明治の「性典」を作った男——謎の医学者・千葉繁を追う』筑摩書房、二〇一四年

千葉繁。え？誰？と思うだろう。明治期に性器論の大ベストセラーを書いた人らしいのだが、今や一般にはまったく知られていないし、資料もない。しかし、著者はわずかな手がかりと、鋭敏かつ緻密な推理をはたらかせこの人物の謎を解き明かす。文章は爽快で、展開も痛快。地味な探求譚のはずが、二時間もののミステリー系テレビドラマに仕立て上げたくなるおもしろさなのだ。とりわけうまいのは、「千葉の事情」を少しずつ想像し再構成しつつ、時代背景を確認するあたり。日本近代史の細部が満載で、大河ドラマ風でもある。調査のお手本ともなるので、若き学徒にもおすすめしたい。

2 小池昌代『たまもの』講談社、二〇一四年

昨年一年、雑誌『文學界』で新人小説の作品をすべて読む仕事をしたが、本書はその中でももっとも印象に残った一つ。小池昌代が新人？という議論はとりあえずおくと、詩人として、エッセイストとして、また短篇作家として活躍してきた著者の、長篇作家としての才能をドバツと示した作品だ。元恋人

な訳に仕上げた。本書全体のチョイスも洒落ていて、ステイブンズの他は、十七世紀の超変態詩人ジョン・ダンズの作品が二つも入っているかと思えば、シミツク、ダイベツクなど、柴田ブランドの書き手、さらにはポー、エリオット、デイキンソンなどお馴染みの古典詩人にもお目にかかれる。原文が併記されているのも嬉しいし、挿絵もお楽しみ。

4 Sianne Ngai, *Our Aesthetic Categories: Zany, Cute, Interesting*, Harvard University Press, 2012

美学概念は、その時代に応じてたえず更新される必要がある。この本では「おどけた」「かわいい」「たんにおもしろい」という三つのキーワードを立て、とくにモダニズム期の文学芸術を動かした美学原理を追求しようとするもの。とくに「かわいい」は日本でも話題になることが多く、西洋のコンテクストで

あらためて見直すと発見も多い。意外と東西の接続がなされていない領域なので、さらなるフォロワーが待たれる。

5 片岡義男×鴻巣友季子『翻訳問答——英語と日本語行ったり来たり』、左右社、二〇一四年

対談の名手としても知られる片岡義男。相手には、同じく対談経験豊かな鴻巣友季子を得て楽しい翻訳談義……と思いきや、実はなかなかシビアな翻訳合戦が展開する。オースティン、チャンドラー、ブロンテなど、古典の一節をそれぞれが訳して持ち寄り合評。二人のスタンスの違いも浮き彫りになり、緊張感のある技術論が楽しめる。

千田 善

1 宮尾節子『明日戦争がはじまる』（思潮）

西本晃二

12000円

# ルネッサンス史

イタリヤ半島からフランス、スペイン、イングランド、ドイツまで広がった一大現象を、経済・政治・社会の裏面から大胆に描き切った大著。◎内容見本屋

## 〈持ち場〉の希望学

釜石と震災、もう一つの記憶  
東大社研  
中村尚史・玄田有史編  
震災のなか、公的な職務をまっとうした人びとは何を考え、いかに行動したのか。これまで語られてこなかった震災の記憶。2800円

## 宇宙論の物理

【上・下】  
松原隆彦  
現代宇宙論の理解に必要な物理的基礎を、第一原理から解説した決定版テキスト。各巻3800円

T\_ADS TEXTS 01

## これからの建築理論

東京大学建築学専攻  
Advanced Design Studies 編  
横文彦×磯崎新×原広司の対談  
ほか、貴重なインタビューやエッセイも満載。1400円

## 東京大学出版会

〒153-0041 東京都目黒区駒場4-5-29  
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991  
http://www.utp.or.jp/ 【価格税別】